



エンタープライズパラメータおよびサービスの設定

- [エンタープライズパラメータの概要 \(1 ページ\)](#)
- [サービスパラメータの概要 \(2 ページ\)](#)
- [システムパラメータのタスクフロー \(2 ページ\)](#)

エンタープライズパラメータの概要

エンタープライズパラメータは、同一クラスタに存在するすべてのデバイスやサービスに適用されるデフォルト設定を提供します。クラスタは、同じデータベースを共有する Cisco Unified Communications Manager のセットで構成されます。Cisco Unified Communications Manager の新規インストール時には、エンタープライズパラメータを使用して、デバイスのデフォルトの初期値が設定されます。

エンタープライズパラメータの多くは、ほとんど変更の必要がありません。変更しようとしている機能を完全に理解している場合、または Cisco Technical Assistance Center (TAC) から変更を指示された場合を除き、エンタープライズパラメータを変更しないでください。

ほとんどの場合、推奨されるデフォルト設定が機能するはずです。

- IP 電話のフォールバック接続モニタ期間を設定します。
- すべてのユーザに対して社内ディレクトリの検索を許可します。
- クラスタの完全修飾電話番号 (FQDN) と組織のトップレベルドメインを設定します。
- ビデオ対応の Cisco Jabber 開始条件を設定します。
- (オプション) ネットワークが IPv6 を使用している場合は、IPv6 を有効にします。
- (オプション) リモート syslog サーバ名前を入力します。
- (オプション) 導入をトラブルシューティングするためのコールトレースログを設定します。
- (オプション) 依存関係レコードを有効にします。

サービスパラメータの概要

サービスパラメータを使用すると、選択した Unified Communications Manager サーバでさまざまなサービスを設定できます。すべてのサービスに適用されるエンタープライズパラメータとは異なり、各サービスは個別のサービスパラメータのセットで設定されます。

サービスパラメータでは、次の2種類のサービスを設定できます。これらはいずれも Cisco Unified Serviceability 内で有効化できます。

- **機能サービス:** この種類のサービスは、特定のシステム機能を実行するのに使用されます。それらを使用するためには、機能サービスをに対してオンにする必要があります。
- **ネットワーク サービス:** ネットワーク サービスはデフォルトでオンになっていますが、トラブルシューティングの目的でネットワークサービスの停止と開始（または再起動）を選択できます。この種類のサービスには、データベースやプラットフォームなどのシステムコンポーネントが正常に機能できるようにするサービスが含まれます。

サービスパラメータの [サービスパラメータ (service parameter)] フィールドの説明を表示するには、[サービスパラメータの設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで [?] アイコンをクリックするか、パラメータの名前をクリックします。



- (注) サービスを非アクティブ化すると、更新されたサービスパラメータ値は Unified Communications Manager に保持されます。サービスを再開すると、Unified Communications Manager はサービスパラメータを変更後の値に設定します。

システムパラメータのタスクフロー

始める前に

Unified Communications Manager ノードとポート設定をセットアップします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
Step 1	エンタープライズパラメータを設定する (3 ページ)。	ユニファイド コミュニケーション マネージャノードの初期セットアップに必要なシステム全体のパラメータを設定します。
Step 2	基本サービスのアクティブ化 (9 ページ)。	Cisco Unified Serviceability を使用するノードで、サービスをアクティブ化することができます。

	コマンドまたはアクション	目的
Step 3	サービスパラメータの設定（12 ページ）。	クラスタ内のパブリッシュャードとサブスクリバノードのサービスパラメータを設定します。

エンタープライズパラメータを設定する

導入のエンタープライズレベルのパラメータを編集するには、次の手順を実行します。これを使用して、組織の最上位ドメインまたはクラスタの完全修飾ドメイン名などのエンタープライズレベルの設定を設定できます。



(注) Cisco ユニファイド CM Administration でパラメータを編集すると、新しい設定も Cisco ユニファイド CM、IM およびプレゼンスの管理に反映されます。

手順

- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
- [エンタープライズパラメータ (Enterprise parameters)] ウィンドウに、エンタープライズパラメータのリストが表示されます。
- Step 2** パラメータ設定を編集します。
- パラメータに関する説明を参照するには、GUI でパラメータ名をクリックします。一般的なエンタープライズパラメータの詳細については、「よくある企業パラメータ (3 ページ)」を参照してください。
- Step 3** [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 4** [リセット(reset)] をクリックし、[OK] をクリックしてすべてのデバイスをリセットします。
- (注) ほとんどのパラメータでは、設定を保存した後にデバイスをリセットする必要があります。デバイスを登録している場合は、デバイスをリセットする前に、すべての設定変更を完了することをお勧めします。
- システム内のすべてのデバイスプールをリセットすることで、すべてのデバイスをリセットできます。

よくある企業パラメータ

次の表に、組織のトップレベルドメインまたはクラスタの完全修飾ドメイン名など、エンタープライズ設定に使用される共通のエンタープライズパラメータを示します。詳細なリストを見るに

は、Cisco Unified CM Administration の [システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] メニューを使用します。

表 1: Unified Communications Manager の初期設定用の共通エンタープライズパラメータ

パラメータ名	説明
エンタープライズパラメータ	
接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)	<p>クラスタ内の IP 電話がセカンダリ ノードに登録された場合に、このパラメータを使用して、プライマリ ノードが使用可能になった後、それがフォールバックして再登録される前に、IP 電話が待機する時間を設定します。このパラメータは、特定のセキュア Survivable Remote Site Telephony (SRST) ルータに対応するすべてのセキュアなデバイスに影響します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p> <p>デフォルトは 120 秒です。</p> <p>変更内容を反映するには、すべてのサービスを再起動してください。</p>
CCMAdmin パラメータ	
依存性レコードを有効化 (Enable Dependency Records)	<p>このパラメータはトラブルシューティングに必要な依存関係の記録を表示します。初期システム設定の間、依存記録を表示することは有益であるかもしれない。</p> <p>依存関係記録の表示は、高い CPU 使用率のピークをもたらし、コール処理に影響を与える可能性がある。考えられるパフォーマンス問題を回避するために、システム設定の完了後は、このパラメータを無効にします。負荷の低い時間帯またはメンテナンスウィンドウの間だけに依存関係レコードを表示することを推奨します。</p> <p>有効にすると、Unified Communications Manager を使用してほとんどの設定画面からアクセスできる [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで、[依存関係レコード (Dependency Records)] を選択できるようになります。</p> <p>デフォルト: False</p>
ユーザ データ サービスパラメータ	
すべてのユーザ検索を有効にする (Enable All User Search)	<p>名前、名前、またはディレクトリ番号が指定されていない場合、このパラメータは会社のディレクトリのすべてのユーザを検索することができます。このパラメータは、[Cisco CallManager セルフケア (Cisco CallManager Self Care)] (CCMUser) ウィンドウでのディレクトリ検索にも適用されます。</p> <p>デフォルト: True</p>
クラスタ全体のドメイン設定	

パラメータ名	説明
組織の最上位ドメイン (Organization Top Level Domain)	このパラメータは、組織のトップレベルのドメインを定義します。例： cisco.com 最大長：255 文字 許可された値は、大文字と小文字、数字 (0-9)、ハイフンとポイント (ドメインラベル区切り記号として) の有効領域を使用します。ドメイ ンラベルの先頭文字をハイフンにすることはできません。最後のラベル の先頭文字を数字にすることはできません。たとえば、cisco.lom といっ たドメインは無効です。
クラスタの完全修飾ド メイン名 (Cluster Fully Qualified Domain Name)	このパラメータに、このクラスタの1つまたは複数の完全修飾ドメイン 名 (FQDN) を定義します。複数の FQDN はスペースで区切る必要があり ます。アスタリスク (*) を使用して、FQDN 内でワイルドカードを 指定することができます。例：cluster-1.cisco.com *.cisco.com このパラメータのいずれかの FQDN に一致するホスト部分がある URL を含む要求 (SIP コールなど) は、クラスタと接続されたデバイスにルー ティングされます。 最大長：255 文字 有効な値：FQDN または *ワイルドカードを使用した部分的な FQDN。 大文字と小文字、数字 (0-9)、ハイフンとポイント (ドメインラベル 区切り記号として)。ドメインラベルの先頭文字をハイフンにすること はできません。最後のラベルの先頭文字を数字にすることはできませ ン。たとえば、cisco.lom といったドメインは無効です。
IPv6	

パラメータ名	説明
IPv6 の有効化 (Enable IPv6)	<p>このパラメータは、Unified Communications Manager が Internet Protocol Version 6 (IPv6) をネゴシエートできるかどうか、および電話で IPv6 機能をアダプタイズできるかどうかを決定します。</p> <p>このパラメータを有効化する前に、すべてのノードのプラットフォームも含め、他のすべてのネットワーク コンポーネントで IPv6 を有効にする必要があります。それ以外の場合、システムは引き続き IPv4 専用モードで稼働します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト: False (IPv6 は無効です)</p> <p>IPv6パラメータの変更を有効にするには、以下のサービスと、IM and Presence Service クラスタ内の影響を受けるサービスを再起動する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager • Cisco IP Voice Media Streaming App • Cisco CTIManager • Cisco Certificate Authority Proxy Function
Cisco Syslog Agent	
リモート Syslog サーバ名 1 (Remote Syslog Server Name 1)	<p>リモート Syslog サーバの名前または IP アドレスを入力します。サーバ名が指定されていない場合、Cisco Unified Serviceability は Syslog メッセージを送信しません。このパラメータは、ログ用に Syslog サーバを使用している場合にのみ必須です。</p> <p>最大長: 255 文字</p> <p>許可された値: 文字の大きさ、数字(0-9)、ハイフン、ポイントの有効なリモート Syslog サーバ名を使用します。</p> <p>別の Unified Communications Manager ノードを宛先として指定することはできません。</p>
Cisco Jabber	
ビデオとともにコールを開始しない (Never Start Call with Video)	<p>このパラメータは、ビデオコールの開始時に、ビデオを送信するかどうかを決定します。すぐにビデオを送信せずにビデオコールを開始するには、[True]を選択します。ビデオコール中はいつでも、ビデオの送信開始を選択できます。</p> <p>このパラメータは、IM and Presence Service のどの設定よりも優先されます。False に設定すると、ビデオコールは IM and Presence Service で指定された設定に従って開始されます。</p> <p>デフォルト: False</p>

パラメータ名	説明
SSO および OAuth の設定	
IOS の SSO ログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS)	<p>このパラメータは、制御された Mobile Device Manager (MDM) 導入環境で Cisco Jabber が IdP に対して証明書ベースの認証を実行できるようにする場合に必要です。</p> <p>[iOS向けSSOログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS)] パラメータには次のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [組み込みブラウザの使用 (Use Embedded Browser)]: このオプションを有効化すると、Cisco Jabber は SSO 認証に組み込みブラウザを使用します。このオプションにより、バージョン9より前の iOS デバイスのネイティブ Apple Safari ブラウザで、クロス起動なしの SSO を使用できるようになります。 • [ネイティブブラウザの使用 (Use Native Browser)]: このオプションを有効化すると、Cisco Jabber は、MDM 導入環境でアイデンティティプロバイダー (IdP) に対して証明書ベースの認証を実行するために、iOS デバイスで Apple Safari フレームワークを使用します。 <p>(注) 制御された MDM 導入環境である場合を除き、ネイティブブラウザの使用は組み込みブラウザを使用する場合ほどセキュアではないため、このオプションの設定は推奨しません。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>[デフォルト (Default)]: 組み込みブラウザ (WebView) を使用します。</p>

パラメータ名	説明
更新ログインフローを使用した OAuth (OAuth with Refresh Login Flow)	<p>このパラメータは、Unified Communications Manager に接続するときに、Cisco Jabber などのクライアントによって使用されるログインフローを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [有効 (Enabled)]: このオプションを有効にすると、クライアントで OAuth ベースの高速なログインフローを使用してすばやく効率的にログインできるようになり、たとえばネットワークの変更などによってログインし直す際にユーザが入力する必要がなくなります。このオプションを使用するためには、Expressway や Unity Connection (更新ログインフローが有効化されている互換性のあるバージョン) など、Unified Communications ソリューションのその他のコンポーネントからのサポートが必要です。 • [無効 (Disabled)]: このオプションを有効化する場合、従来の動作のままとなり、旧バージョンの他のシステムコンポーネントとの互換性が保たれます。 <p>(注) Cisco Jabber を使用したモバイルおよびリモートアクセスの導入環境では、更新ログインフローで OAuth をサポートする、互換性のある Expressway バージョンでのみ、このパラメータを有効化することを推奨します。互換性のないバージョンは、Cisco Jabber の機能に影響する場合があります。サポートされているバージョンおよび設定要件については、特定の製品のドキュメントを参照してください。</p> <p>重要 この機能は、リリース 12.5(1)SU7 および 14SU3 以降で適用されます。</p> <p>パブリッシャとともに、サブスクリバノードもリクエスト送信者ノードのデータベースの更新トークンを更新するためのアクセス権を持ち、同じものがクラスタ全体にレプリケートされます。</p> <p>必須フィールドです。 デフォルトでは無効になっています。</p>
更新トークンの自動更新	<p>このパラメータを使用すると、管理者は更新トークンの自動更新を有効または無効にできます。デフォルトでは、このパラメータはイネーブルです。無効になっている場合、Unified Communications Manager は更新トークンを自動延長しないことで、以前の動作を保持します。</p> <p>重要 この機能は、リリース 15 以降で適用されます。</p> <p>必須フィールドです。 デフォルトは Enabled です。</p>

パラメータ名	説明
RTMT での SSO の使用 (Use SSO for RTMT)	<p>このパラメータは、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) 用に SAML SSO を有効化するために設定します。</p> <p>[RTMTでのSSOの使用 (Use SSO for RTMT)]パラメータには、次のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [True]: このオプションを選択すると、RTMT は、SAML SSO ベースの IdP ログイン ウィンドウを表示します。 <p>(注) 新規インストール時には、[RTMTでのSSOの使用 (Use SSO for RTMT)]パラメータのデフォルト値は True になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [False]: このオプションを選択すると、RTMT は、基本認証のログイン ウィンドウを表示します。 <p>(注) [RTMT での SSO の使用 (Use SSO for RTMT)]パラメータがない Cisco Unified Communications Manager のバージョンからアップグレードする場合、新しいバージョンに表示されるこのパラメータのデフォルト値は False です。</p> <p>必須フィールドです。 デフォルト: True。</p>

基本サービスのアクティブ化

クラスタ全体でサービスをアクティブ化するには、この手順を使用します。

パブリッシャノードとサブスクリバノードで推奨されるサービスの一覧については、次のトピックを参照してください。

- [パブリッシャノードに推奨するサービス \(10 ページ\)](#)
- [サブスクリバノード用の推奨サービス \(11 ページ\)](#)

手順

- Step 1** Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択します。
- Step 2** ドロップダウンメニューから [サーバ (Server)] を選択して、[移動 (Go)] をクリックします。サービスと現在のステータスが表示されます。
- Step 3** 必要なサービスをアクティブ化または非アクティブ化します。

- サービスをアクティブ化するには、アクティブ化するサービスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- サービスを非アクティブ化するには、非アクティブ化するサービスの横にあるチェックボックスをオフにします。

Step 4 [保存 (Save)] をクリックします。
サービスのアクティブ化が完了するには数分かかることがあります。ステータスの変更を確認するには、ページを更新します。

パブリッシャノードに推奨するサービス

次の表に、専用でない TFTP サーバを使用している場合に Unified Communications Manager パブリッシャノードに推奨されるサービスを示します。

表 2: 専用ではない TFTP サーバの導入環境に推奨するパブリッシャノードサービス

タイプ	サービス名
CM サービス	Cisco CallManager
	Cisco Unified Mobile Voice Access Service
	Cisco IP Voice Media Streaming App
	Cisco CTIManager
	Cisco Extended Functions
	シスコ クラスタ間検索サービス
	シスコ ロケーション帯域幅マネージャ
	Cisco TFTP
CTI サービス	Cisco IP Manager Assistant
	Cisco WebDialer Web Service
CDR サービス	Cisco SOAP - CDRonDemand Service
	Cisco CAR Web Service
データベースおよび管理者サービス	Cisco Bulk Provisioning サービス
	AXL Web サービス
	Cisco URL Web Service
パフォーマンスおよびモニタリングサービス	Cisco Serviceability Reporter
	Cisco Certificate Authority Proxy Function

タイプ	サービス名
ディレクトリサービス	Cisco DirSync



ヒント 以下のサービスを使用しない場合、安全にそれらを無効にできます。

- Cisco Messaging Interface
- Cisco DHCP Monitor サービス
- Cisco TAPS サービス
- Cisco Directory Number Alias Sync
- Cisco Dialed Number Analyzer Server
- Cisco Dialed Number Analyzer
- Self Provisioning IVR

サブスクライバーノード用の推奨サービス

次の表に、専用でない TFTP サーバを使用している場合に、Unified Communications Manager サブスクライバーノードに推奨されるサービスを示します。



ヒント 他のサービスを使用する予定がない場合は、そのサービスを安全に無効にすることができます。

表 3: 専用の TFTP サーバ導入に推奨されるサブスクライバーノードサービス

タイプ	サービス名
CM サービス	Cisco CallManager
	Cisco IP Voice Media Streaming App
	Cisco CTIManager
	Cisco Extension Mobility
	Cisco Extended Functions
	Cisco TFTP

クラスタ内の各 IM and Presence Service ノードで、次のサービスをアクティブ化する必要があります。

- Cisco SIP Proxy
- Cisco Presence Engine

- Cisco XCP Connection Manager
- Cisco XCP Authentication Service

サービスパラメータの設定

ノードのサービスパラメータは、Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して設定できます。クラスタ全体としてマークされているサービスパラメータは、クラスタ内の全ノードに影響を及ぼします。



注意 サービスパラメータの一部の変更は、システム障害の原因になることがあります。変更しようとしている機能を完全に理解している場合と、Cisco Technical Assistance Center (TAC) から変更の指定があった場合を除いて、サービスパラメータに変更を加えないようにしてください。

始める前に

- Unified Communications Manager ノードが設定されていることを確認します。
- サービスがアクティブであることを確認します。詳細については、「[基本サービスのアクティブ化 \(9 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

Step 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。

Step 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストのノードを選択します。

Step 3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストのサービスを選択します。

ヒント [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの ? アイコンをクリックして、サービスパラメータのリストと説明を表示します。

Step 4 [詳細設定 (Advanced)] をクリックして、すべてのパラメータのリストを表示します。

Step 5 サービスパラメータを変更し、[保存 (Save)] をクリックします。

ウィンドウが更新され、サービスパラメータ値が更新されます。

[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックすると、すべてのパラメータが、[パラメータ値 (Parameter Value)] フィールドの後に表示される推奨値に更新されます。パラメータに提案値が設定されていない場合は、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックしてもサービスパラメータ値は変更されません。

クラスタ全体のサービスパラメータ設定の表示

Cisco Unified Communications Manager Assistant および Cisco Unified Serviceability を使用して、クラスタ内のノードのサービスステータスを表示できます。サービスパラメータの設定とパラメータの説明を表示するには、Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用します。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用してノードのサービスを表示し、サービスパラメータ設定を確認するには、次の手順を実行します。
- [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
 - [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[サーバ (Server)] ドロップダウンリスト ボックスのノードを選択します。
 - [サービス (Service)] ドロップダウン ボックスのサービスを選択します。
選択したノードに適用されるすべてのパラメータが表示されます。[クラスタ全体のパラメータ (一般) (Clusterwide Parameters (General))] セクションに表示されるパラメータは、クラスタ内の全ノードに適用されます。
 - [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの (?) アイコンをクリックし、サービスパラメータと説明のリストを表示します。
- Step 2** クラスタ内の全ノードに関する特定のサービスのサービスパラメータを表示するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン ボックスの [すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] を選択し、[Go] をクリックします。
[すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] ウィンドウが表示されます。表示されているサーバ名またはパラメータ値をクリックして、関連する [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウを開くことができます。
- Step 3** クラスタ内の全ノードに関する特定のサービスの同期外れサービスパラメータを表示するには、[すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン ボックスの [すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] を選択し、[Go] をクリックします。
[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] ウィンドウが表示されます。表示されているサーバ名またはパラメータ値をクリックして、関連する [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウを開くことができます。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。